

◎「呉海軍警備隊」傘下・足摺探信所跡のフィールドワーク

本日11月4日(金)、3・4校時目の総合学習(5～6年生)の授業として、標記戦争遺跡(足摺探信所跡)のフィールドワークを実施しました。1名児童が欠席していましたので5名の児童が参加しました。

初めは、旧航空標識所跡の西側にかつて設置されていた2式1号1型のレーダーのコンクリート基礎の見学を行いました。これらのレーダーの設置は昭和17年(1942)5月頃から始まった。約80年前に造られたレーダーのコンクリート基礎部分ではあるが、ひび割れもなく、山中ではあるが丈夫な基礎が残っている。児童たちに「このコンクリートは、何でできているか」と問うと、「水・コンクリ・バラス」までは答えたが、「砂」を答えることはできなかった。

今月11日午後から、このフィールドワークを基にした授業を展開しようと思うが、この「砂」「バラス」「レーダー」をどうやって麓から運搬してきたのかということのポイントに授業を行っていきたいと考える。この授業は、土佐清水市教育研究集会・社会科部会の主催する公開授業であり、社会科を専門とする市内小中の教員に見ていただけることになっている。



↑ 呉海軍警備隊足摺探信所兵舎跡の敷地



↑ 足摺探信所・本部指揮所跡



↑ 兵舎と本部指揮所の連絡道付近の壕



↑ 山上にあるレーダー施設



フィールドワークでは、初めに足摺岬西側の切詰にある市営駐車場で「山に登るときの注意」「自然に畏敬の念を持つこと」「自然を感じ取ることの重要性」などについて話をした。季節柄「乾の風(北東風)」が海上に強く吹き白波が見られた。万次郎がこのような天候のもと、嵐に遭い、室戸沖・紀州沖を経て、絶海の孤島「鳥島」まで流されたことを児童に伝えた。

フィールドワークで山歩きをしながら、アケビの蔓やその実を児童に知らないか聞いてみた。するとほとんどの児童がアケビの蔓や実を知らなかった。

最近では、都会の子も田舎の子もほとんど差がないという。田舎の子であっても、豊かな自然体験をする機会が薄れてきている。自然の変化やその囁きに耳を貸すこともときには重要であろう。ペーパーの学力のみが全てではないはずだ。

市史編さん室は、これからも土佐清水市の歴史・地理・文化のエキスをドンドン学校現場に放出していきたい。教材の宝庫である市域の独自性について広く啓発活動を続けていきたい。

【編集後記】

『新土佐清水市史「通史編」』のゲラ前原稿が続々と提出されている。10月末までに「第15章動物」「第14章植物」「第7章戦争遺跡」「第8章同和教育史」の提出がなされた。いよいよ市史編集の大詰めとなってきた。市史編集委員さんや調査協力員の皆さんと協力し、気を引き締めてしっかりと取り組んでいきたい。(田村)